

親の養育態度と子育て支援

林 秀雄・仲野悦子・野々村千恵子

A Basic Study on Parental Attitudes of Child Care and Helping Parents with Nursery School and Kindergarten Children to Rear Their Children

— Through Questionnaire of Parents —

Hideo Hayashi · Etsuko Nakano · Chieko Nonomura

A research questionnaire was administered to parents with nursery school and kindergarten children to clarify their view of child-rearing, their attitudes of child-care and their self-evaluation of child-rearing. The results of this investigation were summarized into the following points.

Many parents have the traditional view of child-rearing and attitudes of child-care, because they are supported in their child-rearing and there is more information of them by their parents.

Some parents feel child-rearing anxiety more than the older generation.

Received Apr. 30, 1997

key word: parental attitudes of child care, parents' view of child, child-rearing

I はじめに

1994年9月全国保育協議会に設置された「新しい時代の保育所のあり方に関する検討委員会」が「新しい時代の保育所機能と運営を考える」とする答申を行った。その中で、保育者の意識改革の必要性を強く求め、以下の四点を指摘している。1) 保育内容に関して、従来のような直接子どもの集団を運営していくという保育所保育から脱皮して、家庭や地域と連携する保育観を確立すること、2) 社会福祉従事者として社会問題を捉え、社会福祉マインドによる利用者援助の本質を見失わないこと、3) 子育てをめぐる生活文化を確立し、向上、継承していくこと、4) 保育の科学的な研究や研修に加えて、家族や地域の実情の把握やそ

こで生活する人びととの交流を積極的に保育所の活動に取り入れること、などが必要としている。

これらの意識改革の視点は、保育者自身の自己研鑽、自己実現は勿論、これからの保育はひとり保育所、保育者のみが行うものではなく家族、地域との連携、協同の活動であることを強く意識させる内容となっている。

これらの指摘は、保育所保育にのみとどまるものではなく、本質的に日本の幼児教育全体に当てはまるものといえる。

このようなことは、当然のこととして保育者養成のこれからを考えるときおおいに考慮すべき事柄となってくる。特に、家庭や地域との連携、協同の問題は、従来養成校としてはあまり取り上げてこなかったものであり、今後の教育課程を検討する場合、十分考慮すべき問題と言わなければならない。

II 目 的

これからの新しい保育を担う保育者を送り出す養成校としても、家庭、地域との連携、協同のあり方について検討することがより良い保育者養成にとって必要と思われる。

家庭、地域との連携、協同のあり方について検討する前提の一つとして、現在の子育て世代、あるいはこれからの子育てを担っていく若い世代の子ども観、子育て観、子育て環境等を明らかにしていくことがあげられる。

そこで本研究では、現在子育てを行っている親の子ども観、子育て観、子育て環境等について明らかにすることを目的とした。

III 調査の方法

1) 調査対象と調査時期

岐阜県内の5幼稚園（公立2園、私立3園）と9保育所（公立6園、私立3園）に通園する園児の親を対象とした。地域的にみた場合、都市部9園（4幼稚園、5保育所）、郊外の園6園（1幼稚園、4保育所）の割合となっている。回答者数は、幼稚園児の親984名、保育所園児の親707名、合計1691名であった（回収率78.0%）。

ほとんどの回答者は、母親（95.8%）であり、父親が3.4%となっている。回答者の年齢は31歳から35歳が51.6%でもっとも多く、36歳以上が24.3%、26歳から30歳が22.0%となっている。

調査は、1995年12月に行った。

2) 調査の手順

アンケート用紙を用いた調査を行った。アンケート用紙の配布については各園の園長を通じて各担任の保育者から親へ配布を依頼し、アンケートへの協力をお願いした。

3) アンケートの内容

アンケートの質問項目²⁾は、(1)望ましい子ども像、(2)子育てで心がけていること、(3)しつけに関することから、(4)食生活に関わることから、(5)子育てについての自己評価、(6)子育てに関する情報源、(7)子育ての相談に関するものなどとなっている。各質問項目の詳細については資料1を参照されたい。

IV 結果と考察

今回のアンケート調査では、以下のような点について現在幼稚園、保育所に通園している子どもの親に対して尋ねた。(1)育つことが望まれる子ども像、(2)実際の子育てで心がけていることとこどもとの関わり方、(3)しつけについての考え、(4)食事に対する考え、(5)子育てについての自己評価、(6)子育てに関する情報源、(7)子育てについての相談相手についてである。

(1) 親が望む子ども像

まずどのような子どもに育てて欲しいかを尋ねた。あらかじめ用意した10項目から2つを選択するように求めた。

その結果は、子育てのまっただ中にある親の多くは、自分の子どもに「思いやりがあり優しい子ども」(全体57.5%、幼稚園58.2%、保育所56.7%)になって欲しいと考えているようだ。そのうえで、「明るくのびのびとした子ども」(全体35.8%、幼稚園35.1%、保育所36.7%)であった

り、「友達と仲良くできる子ども」(全体29.0%、幼稚園28.7%、保育所29.4%)あるいは「自発的・自主的に行動できる子ども」(全体27.1%、幼稚園26.0%、保育所28.5%)であってほしいと思っているように思われる。一方、「知的に優れた子ども」に育てたいと考えている親は、きわめて少数(全体2%弱)であり「感性の豊かな子ども」と「外で遊ぶ健康でたくましい子ども」であって欲しいと願う親の割合は、ともに1割弱にとどまっている。

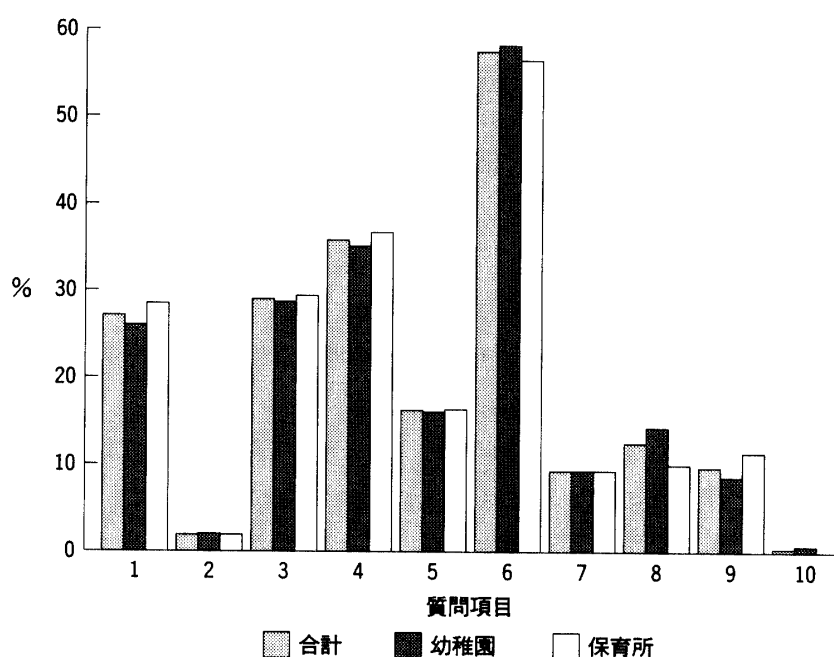


図1 親が望む子ども像 (全体)

どの項目
を見ても幼
稚園、保育
所間での差
は見られな
かった。

総じて、
現在の親の
望む子ども
は「元気で
わんぱくで
たくましい
子ども」よ
りは「思い
やりがあり
優しく友達
と仲良くで
き、主体的
な子ども」

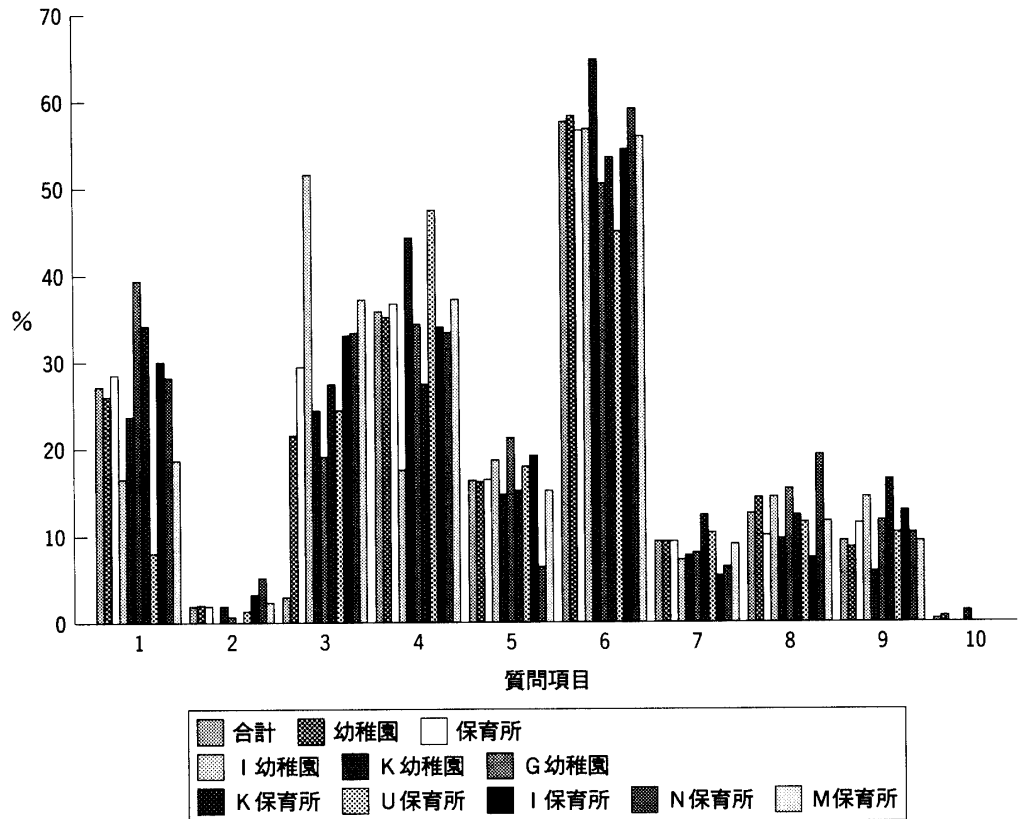


図2 親が望む子ども像 (園間比較)

であって欲しいようだ。このことは、現在子育て中の親だけでなく、調査対象の親よりも10歳から20歳年輩である本学の学生の親もほぼ同じような子ども像を持ちながら子育てを行ってきた(『親の子育て観と保母養成』³⁾参照)。このことから、親の望む子ども像というものは社会の変化ほどには変わるものではないといえる。

全体的に見た場合には、以上のような親の望む子ども像が浮かび上がってくる。しかしながら、それぞれの調査対象園ごとに見た場合には、それぞれの園の間での違いが見られた。それは上記の上位4項目の中に見ることができた。「明るくのびのびした子ども」を選択した親の割合が他の園に比べて高くなっている園が2園(K幼稚園、U保育所)見られた。また、「友達と仲良くできる子ども」では、I幼稚園、M保育所の親が他園にくらべ選択した割合が高くなっている。「自発的・自主的に行動できる子ども」では、G幼稚園の親が高くなっていた。このことがなにに因るかを特定することはできないけれども、たとえば「自発的・自主的に行動できる子ども」を選択した割合が他に比べて高かったG幼稚園の教育目標を見ると「主体的に行動できる子ども」をあげていることが目につく。

また、「友達と仲良くできる子ども」を他園の親に比べ多く選択しているI幼稚園、M保育所の園目標の中に「仲良くする子」がかかげられている。これらの園目標は、他の園では掲

げられていないものであり、他園に比べ高い選択の割合を示したことと園目標との間に何らかの関連があるとみることできる。

(2) 子育てで心がけていること

子育てで心がけていることとしては、16項目の中から4つを選択するように求めた。

親が日ごろの子育ての中で最も心がけていることとしては「あいさつをさせる」ことをあげている。約6割(全体61.3%、幼稚園61.0%、保育所61.8%)

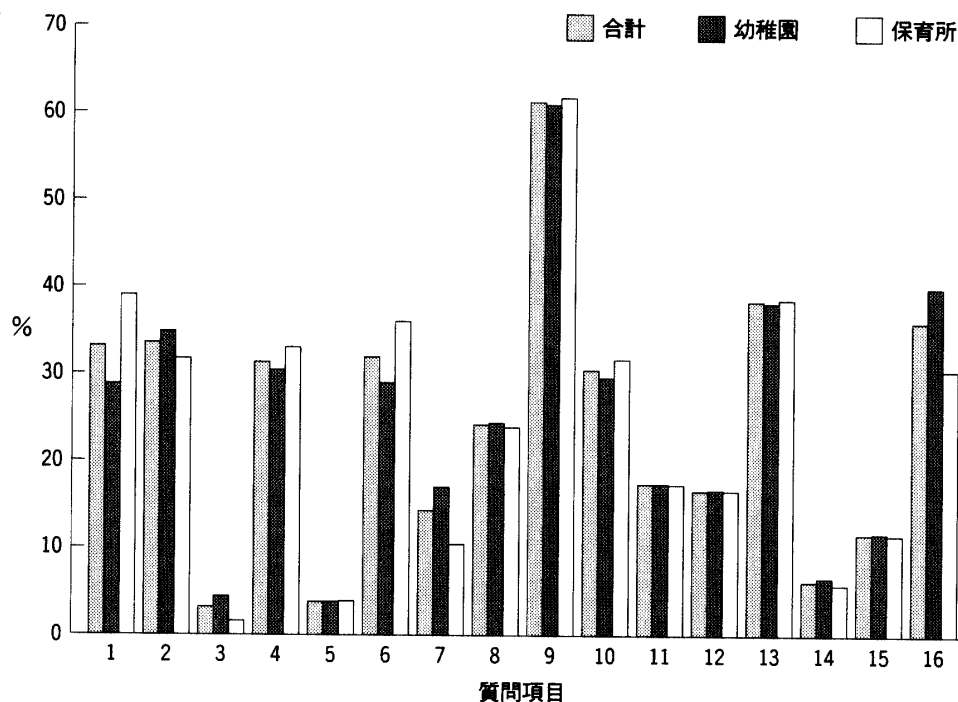


図3-1 子育てで心がけていること

の親がこの項目を選択している。その他には、「あとかたづけなどをさせる」(全体38.4%、幼稚園38.2%、保育所38.6%)、「家の手伝いをさせる」(全体31.9%、幼稚園29.0%、保育所36.0%)といった子どもに対する要求項目がある一方で、「子どもとよく話をする」(全体36.0%、幼稚園40.0%、保育所30.5%)、「子供と一緒に遊ぶようにしている」(全体33.1%、幼稚園28.8%、保育所39.0%)、「絵本などをよく読み聞かせる」(全体31.3

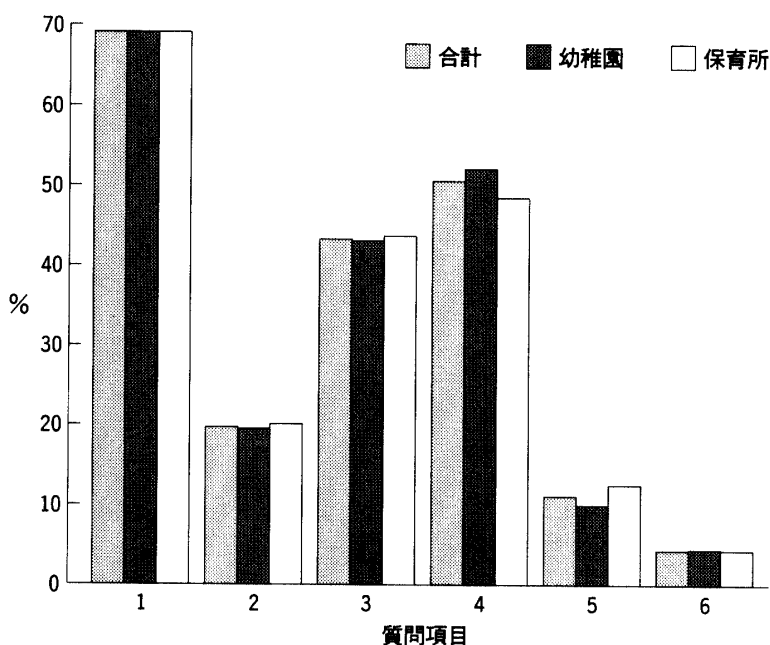


図3-2 子どもとの関わり方

％、幼稚園30.1％、保育所33.0％)、「子どもの気持ちを大事にしている」(全体30.5％、幼稚園29.6％、保育所31.7％)などの親自身の責任項目がほぼ同じような割合で選択されていた。

親の関わり方については、6項目のなかから2つを選択するように求めた。その結果は「子どもと一緒に風呂に入る」(全体69.1％、幼稚園69.1％、保育所69.1％)で最も多く、次には「子供と一緒に話をする」(全体50.6％、幼稚園52.1％、保育所48.5％)、「子どもにお話(絵本など)をしてやる」(全体43.3％、幼稚園43.1％、保育所43.7％)といった割合が高くなっていた。

子育てで心がけていることについても、上記の望ましい子ども像と同様どの質問項目についても幼稚園、保育所間での差異はみられなかった。さらに選択の割合の上位4項目については、園間での差もみられなかった。しかし、いくつかの項目では、園間での選択割合に差がみられた。「子供と一緒に遊ぶようにしている」という項目では、K保育園では49.3％に対してK幼稚園では26.1％となっており2園間での差は20％以上の差となっている。また、「手伝いをさせるようにしている」では、U保育所では43.9％であるのに対してM保育所では22.6％とやはり20％あまりの差となっている。「子どもの気持ちを大事にする」では、都市部のN保育所(41.8％)G幼稚園(41.3％)K保育園(38.4％)K幼稚園(33.3％)と高い割合を示しているのに対して、郊外にあるU保育所(18.3％)I保育所(21.0％)M保育所(22.6％)I幼稚園(24.5％)では相対的に低くなっている。

(3) しつけの中身

しつけについては16項目から3つを選択するように求めた。

他の項目に比べて次の4項目が多くあげられている。「ものを大切にする」(全体60.2％、幼稚園60.8％、保育所59.4％)、「友達と仲良くすること」(56.5％、57.4％、55.1％)、「納得する

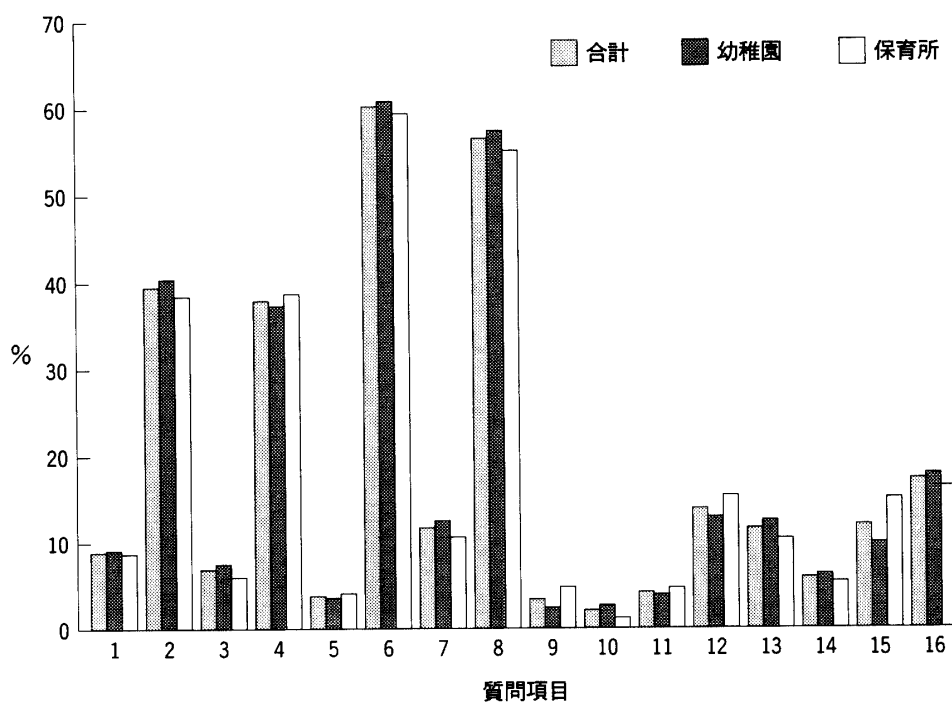


図4 しつけのあり方

まで言い聞かせる」(39.5%、40.4%、38.4%)、「挨拶をさせる」(37.9%、37.3%、38.7%)。「ものを大切に使う」「友達と仲良くする」「挨拶をする」といったきわめて基本的な項目があげられている。また、幼稚園、保育所間での差はみられない。

ただし個々の項目については、園間で選択の割合に差があるものもみられた。「友達と仲良くする」では、I幼稚園が69.7%でもっとも高い選択の割合に対して、K保育園では42.4%にとどまっている。また、「挨拶をする」ではU保育所が54.4%と他園にくらべ20%近く高くなっていたりする。これらの違いをみると、幼稚園、保育所の違いによるものでもなく、地域的な要因も考えにくく、園の保育目標あるいは日常の保育活動が多少反映されているようにも思われる。たとえば、「友達と仲良くする」を選択した割合がもっとも高いI幼稚園の教育目標の中には「仲良くする子」が掲げられている。

(4) 食生活について

食生活に関する8つの項目から2つを選択するように求めた。

食事は「いつも決まった時間に」(全体45.3%、幼稚園47.6%、保育所42.0%)、食卓には「家族全員がそろって」(全体37.3%、幼稚園33.4%、保育所42.6%)とるようにしていることが伺える。食事の内容は「子どもの好きなもの」(全体5.9%、幼稚園6.8%、保育所4.6%)というよりは「特別な献立ではない」(全体33.8%、幼稚園32.6%、保育所35.6%)が「子どもの成長にとってよいもの」(全体25.5%、幼稚園27.3%、保育所23.1%)をつくるようにしているようである。また、

「好きなだけ食べさせる」(全体15.0%、幼稚園16.2%、保育所13.3%)よりも「全部食べ終わるまで待つ」(全体22.4%、幼稚園21.3%、保育所24.0%)家庭の方がわずかながら多いように思われる。

このような傾向は、幼稚園、保育所間では違いはみられない。園相互での差がみられたのは「いつも決まった時間に食事をする」という項目で、もっとも高かったG幼稚園の59.7%に対してK保育園では31.5%にとどまっていた。両園はおなじ都市部にあるが、2割以上の差がみられた。2園が同じ地域であって、幼稚園と保育所という違いがあることを考慮に入れば、親の生活スタイルがそのまま反映したものと予測される。

(5) 子育ての自己評価

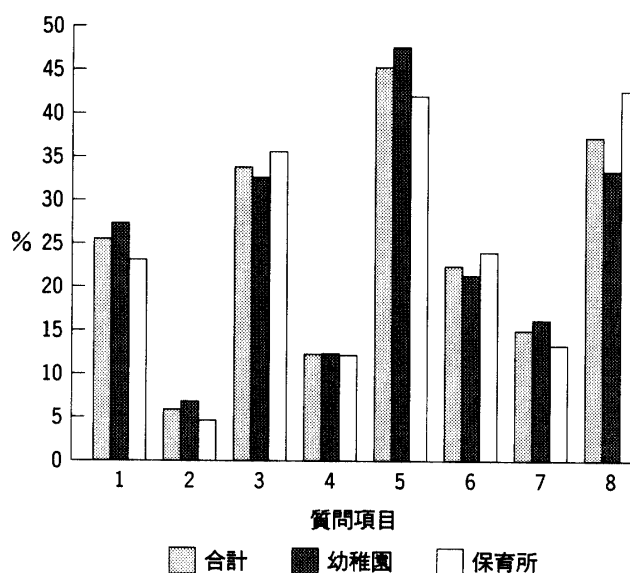


図5 食生活のあり方

親自身の子育てについて、自己評価をお願いした。7つの項目について得点（1点から5点）をつけていただいた。どの項目についても幼稚園と保育所間での差はみられなかった。

まず「子育ては楽しくない」と感じている親よりも、比較的「子育てが楽しい」と多くの親が感じているといえる（全体2.39ポイント）。そのことは「子育てに拘束されて不満」と感じて

いるよりもどちらかといえば「今の生活に満足」と感じている親の方が多く見られること（全体2.51ポイント）、さらに、子育てに「消極的」な親よりも「積極的に取り組んでいる」親が多い（全体2.55ポイント）こととあわせてみるならば、積極的に子育てに取り組むそのことが楽しくもあり満足できる生活を送っていることを示している。しかし、そうであっても「子育てに自信がもてる」ということには繋がらないようだ。この項目についてのみマイナスの自己評価になっている（全体3.13ポイント）。

このことは、まさに今現在子育てを行っている親であり、無事育て終えたわけではないのであり、このような結果になったとも言えるが、育児を楽しく積極的に取り組んでいるものの何らかの不安を抱えながら子育てを行っているように思われる。

また、親たちは、比較的よく「ほめる」（全体2.52ポイント）が、と同時に「口やかましく」（全体2.53ポイント）「甘やかすよりは少し厳しい」姿勢（全体2.76ポイント）で子育てにあたっているようにみられた。

(6) 子育ての情報源

子育てに関する情報を主にどこから得ているのかをたずねた。9項目の中から2つを選択するように求めた。

子育てに関する情報源として「友人」が最も多く（全体59.1%、幼稚園61.1%、保育所56.3%）、次に「保育所・幼稚園の先生」（全体37.6%、幼稚園31.2%、保育所46.5%）となり、「書籍・雑誌」（全体25.3%、幼稚園26.6%、保育所23.4%）、「両親」（全体24.5%、幼稚園25.3%、保育所23.4%）の順となっている。この場合の友人とは、同じ年代で、同じように子育て中であったり、最近まで小さな子どもを育てていた人を指すように思われる。「先生」

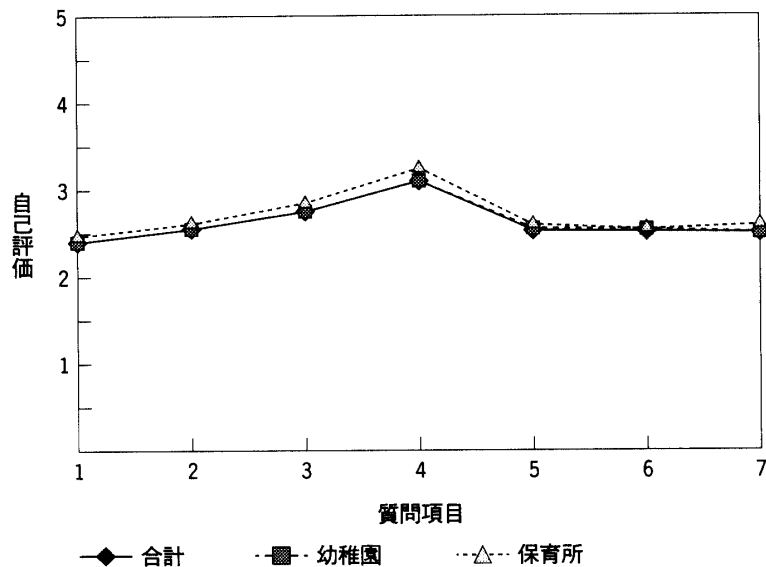


図6 子育ての自己評価

が情報源の2番目になったことはどのように評価すればよいのか。地域の子育て支援センターとしての保育所・幼稚園の役割が強く求められてきていることを考える時、この割合は、少し低いのかもしれない、しかし「望ましい子ども像」「しつけ」の中でも指摘したように、園の保育目標が親の意識、態度に反映していることを考えれば、今後保育者側からの積極的な働きかけが望まれる点であろう。

これまでの質問では、ほとんど幼稚園・保育所の差異は見られなかったが、この質問については幼・保の間での差が比較的是っきりと認められる。すなわち、

情報源の2番目とした「先生」の割合が、幼稚園の親よりも保育所の親の方が15%あまり高くなっていることである。このことは保育所に通う子どもの親の方が先生からの情報を多く受け入れている、あるいは受け入れる姿勢をより持っていることになる。

(7) 子育てに関する相談相手

子育てに関して誰とよく相談されるのかをたずねた。5項目から2つを選択するように求めた。

相談相手については、上記の情報源とある程度対応することが予測されたが、必ずしも情報源と相談相手とは一致しないようである。もっとも多かったのは「友人」(全体67.1%、幼稚園70.2%、保育所62.9%)であり、これは情報源と対応している。しかし、次には「両親」(全体48.4%、幼稚園49.9%、保育所46.3%)が続き、3番目に「先生」(全体40.1%、幼稚園32.7%、

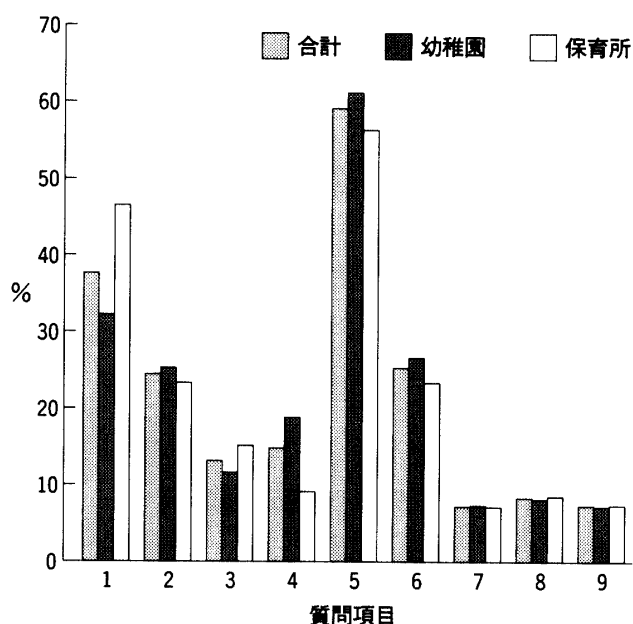


図7 子育ての情報源

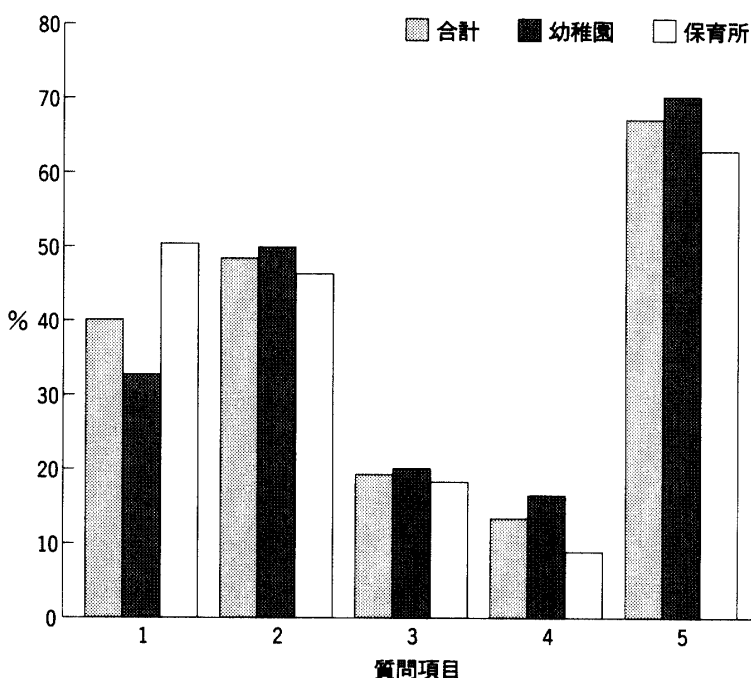


図8 子育ての相談相手

保育所50.4%)となっている。情報源としては「先生」を多くあげながら相談は「両親」とする親が比較的多くみられる。両親との同居の割合は全体で11.5%であり、したがって同居はしていないが子育ての相談には「両親」を多くの親が頼りにしていることが伺える。

また、幼稚園、保育所間でみた場合には、「友人」「両親」の割合は大きな差がみられないものの、「先生」を相談相手に選ぶ割合は大きな差がある。保育所では約5割の親が「先生」を主な相談相手としているのに対して幼稚園では3割強にとどまっている。これは、情報源として保育所の親の方が「先生」を多くあげていることと符合するようと思われる。

V おわりに

これからの保育が親との提携、協同を抜きにはあり得ないことが保育の場で共通認識と成りつつある中で、保育者養成の側もそのことを十分に考慮に入れた保育者養成を考えていかなければならない。いままでも、保育は保育者のみならず親との共同作業であることは当然のこのように語られてきた。しかし、今日のあるいはこれからの保育を考えると、さらに踏み込んだ親との連携、協同を考えなければならない。そのことは保育者養成においても同じである。

今回の調査では、親との連携、協同を模索する保育のあり方そのものについて検討するものではなく、そのための基礎的資料として親の子ども観、子育て観、子育て環境などを明らかにするものであった。

現在子育てを行っている親の子育て観、子ども観は、すでに子育てを終えた世代のそれと大きく異なるものではないように思われた。若い世代の価値観の多様化、社会の変化などがいわれて久しいけれども、子どもへの思い、子育ての態度などは現在40歳代の世代と基本的には同じといえよう。そのことを裏打ちするものとして、子育てについての相談相手あるいは情報源として親の両親の存在がかなり大きいことがあげられる。

しかしながら、子育てについての自己評価をみると、40歳代のすでに子育てを終えた世代に比べあまり自信が持てないでいることも明らかになった。このことがストレートに子育て不安ということにはつながらないものの、子育てについての情報源が書籍・雑誌も含めて多様であることが現在の親の子育てに対する自信の過小評価とつながるものがあるように思われる。

このような親の状況を見ると、保育者の存在が今まで以上に大きなものとならざるを得ないと考えられる。そのことは、各質問項目について各園ごとの比較をみるとその園の保育目標、園の保育内容が親の子育て観、とくに具体的なしつけや子どもとの関わりなどに反映されていることが読みとれる。全体としては子育てを終えた世代と違いはなく、また子どもが通う園が幼稚園か保育所かによる違いはないものの、園ごとの親の回答に微妙な差がみられた。したがって、保育者があるいは保育現場が親との連携、協同をよりすすめるとき保育

親の養育態度と子育て支援

者の保育観、子ども観が親に大きく影響を与えることになることは自明といえる。

したがって、保育者養成の観点からは親の不安に応えることができ、子どもを育てるためには親との深い信頼関係が築けるだけのしっかりとした保育観、人間観をもつ、持てる保育者を育てていかなければならない。

今回の調査では、親との連携、協同を進めていく保育のあるべき姿を考える前提となる親の意識、態度、子育て環境などの基礎的な資料を得ることができたと考える。今後は、実際の保育の場での親との連携のあり方について考えていきたい。そのことは、同時にこれからの保育者養成のあり方を考えることにもつながると思う。

最後に、今回の調査に協力していただいたたくさんの園児の親のみなさん、また園の先生方にお礼を申し上げます。

注

- 1) 新しい時代の保育所のあり方に関する検討委員会「新しい時代の保育所機能と運営を考える」『保育年報』1994 PP.149-179
- 2) 新実陽子他「早親の育児態度とそれに対する保育者の認識 ーその1 母親の育児態度についてー」『名古屋市立保育短期大学研究紀要』第31巻 1994.5 PP.150-151
浦崎源次他「母親の育児態度とそれに対する保育者の認識 2 ーその1 母親の自己評価と育児態度ー」『日本保育学会第48回研究論文集』 1995.5 PP.710-711
- 3) 野々村千恵子他「親の子育て観と保母養成」『保母養成研究第14号』 1997 PP.79-87

資料1 アンケートの内容（今回の分析項目のみ）

質問1 どのような子どもに育ててほしいとお考えですか。あてはまるものを2つ選んで○をつけて下さい。

- 1 自発的・自主的に行動できる子ども
- 2 知的にすぐれた子ども
- 3 友達と仲良くできる子ども
- 4 明るくのびのびした子ども
- 5 人に迷惑をかけない子ども
- 6 思いやりがあり優しい子ども
- 7 感性の豊かな子ども
- 8 意見をはっきり言える子ども
- 9 外で遊ぶ健康でたくましい子ども
- 10 その他 ()

質問2 子育てをされるうえで日ごろ心がけておられることを4つ選んで○をつけて下さい。

- 1 子どもと一緒に遊ぶように心がけている
- 2 しつけは大切なのでよく注意して守らせる
- 3 ピアノなどのおけいこごとを積極的に取り組ませている
- 4 子どもに絵本などをよく読み聞かせる
- 5 テープやCDなどを活用して情操教育に努めている
- 6 家のお手伝いをさせるよう心がけている
- 7 近所や異年齢の子どもと関わることを促している
- 8 食事の好き嫌いをなくすように工夫している
- 9 あいさつをさせることを大事にしている
- 10 子どもの気持ちを大事にしている
- 11 小動物や植物などの自然物に関心をもつよう努めている
- 12 外で遊ばせるように努めている
- 13 後かたづけなど自分できちんとさせる
- 14 子どもとの接し方として友達的に接しよう心がけている
- 15 年寄りの方に尊敬の気持ちをもつよう心がけている
- 16 子どもとよく話し合うようにしている

質問3 どのようなしつけをされていますか。3つ選んで○をつけて下さい。

- 1 しかるとき子どもに体罰を与えている
- 2 子どもが納得するまで言い聞かせる
- 3 乱暴や悪戯をしないように監督している
- 4 あいさつは必ずさせる

親の養育態度と子育て支援

- 5 時期が来ればわかるので厳しくしつけない
- 6 ものを大切にするようにしつけている
- 7 お年寄りを大切にしようしつけている
- 8 友達と仲良くするよう話している
- 9 危険なハサミやナイフは持たせないようにしている
- 10 けんかをしている場合はすぐに止めに入る
- 11 けんかの仲裁には入らない
- 12 なるべく外で遊ばせるようにしている
- 13 テレビゲームなどは時間を区切ってさせている
- 14 親の目の届く範囲でしか遊ばせない
- 15 なるべく一緒に子供と遊ぶようにしている
- 16 子どもの遊びには口出しせず好きにさせている

質問4 実際には子どもとどのように関わっておられますか。2つ選んで○をつけて下さい。

- 1 子どもと一緒に風呂に入る
- 2 子どもと一緒にスポーツをしたり散歩をしたりする
- 3 子どもにお話（絵本・その他の本を含む）をしてやる
- 4 子どもと一緒にしゃべりをする
- 5 子どもとおもちゃで遊んでやる
- 6 子どもにおもちゃを作ってやる

質問5 食生活についてお尋ねします。2つ選んで○をつけて下さい。

- 1 子どもの成長にとって良いといわれているものをつくる
- 2 子どもの好きなものを与える
- 3 特別に献立を工夫していない
- 4 大人中心の食事になっている
- 5 いつも決まった時間に食事はとらせている
- 6 食事は全部食べ終わるまで待っている
- 7 子どもの好きなだけの量を食べさせる
- 8 家族全員そろって食事をする

質問6 子どもの欲求をどのように受け止めていますか。1つを選んで○をつけて下さい。

- 1 子どもの欲求がよくわからない
- 2 子どもの欲求をできる限り汲み取るようにしている
- 3 子どもの欲求は選択して聞いてやる
- 4 子どもの欲求にあまり応えることはない

質問7 子育てについて自己評価して下さい。ご自分で妥当と思われる程度の番号に○をつけて下さい。

- | | | | | | | |
|---------------------|-------|---|---|---|---|--------------|
| 1) 子育ては楽しいと感じている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 子育ては楽しくない |
| | ----- | | | | | |
| 2) 子育てに積極的に取り組んでいる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 子育てには消極的である |
| | ----- | | | | | |
| 3) はじめが肝心と厳しく関わっている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 幼少なので甘やかしている |
| | ----- | | | | | |
| 4) 子育てには自信を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 自信が持てない |
| | ----- | | | | | |
| 5) 口やかましく注意をしている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | できるだけ注意をしない |
| | ----- | | | | | |
| 6) ほめることが多い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ほめない |
| | ----- | | | | | |
| 7) 今の自分の生活に満足 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 子育てに拘束され不満 |
| | ----- | | | | | |

質問8 子育てに関する情報源は主にどこでしょう。2つを選んで○をつけて下さい。

- 1 保育所・幼稚園の先生
- 2 両親
- 3 姉妹（兄弟）
- 4 隣人
- 5 友人
- 6 書籍・雑誌（月刊誌など）
- 7 新聞
- 8 ラジオ・テレビ
- 9 その他（ ）

質問9 子育てに関する相談相手は誰でしょうか。2つを選んで○をつけて下さい。

- 1 保育所・幼稚園の先生
- 2 両親
- 3 姉妹（兄弟）
- 4 隣人
- 5 友人